

# Our Life 119号

- \* 内容 \***
- 第13回日本福祉文化学会静岡大会から、16年を経て、今年度は第29回大阪大会に近づく……P.1
  - 「福祉文化と子どもを育む地域づくりを考える」パート2 第2回公開型研修会開催……P.2
  - 本会支援焼津市「港地域ささらい講座」いよいよ開講……P.3
  - 第17回静岡県福祉文化研究セミナー開催／事務局日誌拝見／編集後記……P.4

## 第13回日本福祉文化学会静岡大会から16年を経て 今年度は、「語りと福祉文化」をテーマに第29回大阪大会が10月27日開催

裾野市民文化センターを会場にして、全国から600名余の参加者を迎えて開催した「第13回日本福祉文化学会大会 in しずおか」から、16年が経過した。こうした大会の開催地は、大変なご苦労の日々を送られていることに頭が下がる。静岡大会も3年前から準備に、学会事務局と県内外各地から42名の実行委員（通算8回開催）を構成。大会事務局を置いた焼津市と、会場になった裾野市を数えきれないほど行き来し、協議や連絡調整を積み重ねた。静岡大会を何とか地域社会を巻き込んで実現したいという熱い思いもあり、主には、社会福祉法人富岳会、裾野市、裾野市社会福祉協議会等の全面的なご支援をいただき、「静岡発 福祉文化の創造」をもとに、関係者の熱い思いも重なり、前年の平成13年11月29日には、裾野市で「プレ大会」の開催も実現し、リハーサルともいえる取り組みは、何となく、こうした取り組みだけでも、静岡県内に「福祉文化とは何か」を随分と呼び掛けていたことも、今となっては懐かしい。

静岡大会テーマ「富士山麓 いのちとくらしによりそう福祉文化の創造」をもとに、「地方発 福祉文化」こそ、大切だとも検証したことが思い出される。昨年度（平成29年度）「第28回 日本福祉文化学会全国大会（東京大会）」が、2月18日（1日開催）、東京・池袋の立教大学池袋キャンパスにおいて、全国から多数の参加者が集い、「いのち」と「くらし」を拓く福祉文化の創造をテーマに開催された。「いのち」そして「くらし」の共通キーワードは、静岡大会のテーマが16年を経過しても、「福祉文化」の根底にあることを実感し、永遠のテーマであることに気づく。今期（H.30（2018）～H.32（2020））学会運営に関わる機会をいただいたので、本誌を通じて、「福祉文化議論」や情報を県内各方面に発信して、あの時代を呼び起こせればと密かに感じている。中部東海ブロックエリアは、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、長野県が管内と言われているが、地域性を思うと、なかなかネットワークの難しさも課題である。6月に開催された「理事会」から、近づく「平成30年度 日本福祉文化学会大阪大会」について、本号で紹介できる範囲で紹介する。

- 期日・会場：平成30（2018）年10月27日（土）～28日（日）@桃山学院大学和泉キャンパス聖ヨハネ館
- 主催：日本福祉文化学会大阪大会実行委員会
- 大会会長：石田易司（桃山学院大学名誉教授） 実行委員長：竹内靖子（桃山学院大学准教授）
- 大会プログラム：

### 10月27日（土）

基調講演「語りのなにわ文化」  
シンポジウム「その人らしさが輝く語り」  
自主企画 スペシャル・キャンプ ネットワーク・礼拝・ディスカッション  
（子ども食堂、企画委員会提案内容、公募内容…）  
※ 研究と実践の融合、多様性の現状

### 10月28日（日）

実践・研究発表  
閉会セレモニー  
現場セミナー（4つのコースで開催）  
バンガロー・イッシュの食と文化 障がい者の文化活動体験  
リアリティ探訪（定員20名） 子どもの遊び場

まもなく、正式な「開催要項」が届く。関心のある本会会員及び市民は、問い合わせをお願いしたい。

**●身近な生活圏域で福祉課題解決に向けた「生活会議」を作る**  
**「子どもたちを地域ぐるみで育む福祉コミュニティの構築に向けて」パート 2**  
**「ささえあう地域ぐるみの“子どもの居場所”を考える」を研修テーマに**  
**和やかにアットホームに語れる環境で第 2 回公開型研修会開催**

本会は、平成 17 年度・18 年度の 2 年間にわたり、子どもたちを取り巻く地域環境について理論と実践を融合し議論をしてきた。10 年以上たった今日、あらためて、家庭・家族機能のあり方を問いつつ、子どもたちを取り巻く身近な生活圏域の地域環境について考える事故を迎えた。いかにして、コミュニティ組織の中で、大人社会は子どもたちと向き合い、地域ぐるみで子どもたちを育む取り組みが出来るか、「協働」をもとに身近な生活圏域の問題として、今年度の活動テーマに議論展開している。5 月 27 日に開催した、第 1 回公開型研修会では、『円卓トーク：地域が抱えている子どもの居場所とは－これからの地域づくりをめざす－』をもとに「子どもを取り巻く地域環境の現状について」3 つのグループに分かれ、「KJ 法」により、「地域環境の現状」を市民の立場で議論した。8 月 25 日に静岡市清水区「追分公民館」で開催した、第 2 回公開型研修会では、20 代から 80 代の男性 9 名、女性 4 名の 13 名の参加は、[着眼項目] ①「静岡発 福祉文化の創造」23 年目の活動を「子ども」につなげる場、②世代を超えて、身近な生活圏域の課題解決に向けた議論（「生活会議」）をする場、③「今、あらためて、子どもと社会環境その意識と実態」の把握に取り組む議論をする場、④「子どもたちを取り巻く地域環境（ご近所福祉）改善提案」を語る場、⑤「子どもたちにとって居場所とは何か」を具体化する場をもとに、基調報告「子どもを取り巻く社会環境の現状とニーズ把握」、引き続き、「寄ってっ亭」で開催されていた「子ども食堂事業－子どもっ家」を理論と実践で学んだ。

第 2 回目の研修のメインである「ワークショップ」は、第 1 回研修会で浮き彫りにした課題を「9 つの課題」に集約し、それぞれの課題に、参加者は 60 枚ほどのカードを出し合い、改善・解決策に取り組んだ。ここでは、主な項目を提示する。今回は、これまでにない、少人数の参加ではあったが、地域社会を凝縮した、語れる環境が再現できた。こうした、世代を超えて話し合える環境こそが「福祉文化実践活動」とも置き換えられることを確認し合った。

ワークショップの概要を紹介すると…

**1. 各家庭と近隣地域とのつながりづくり**

- 1 回覧板は一声かける
- 2 ゴミの日に鴉が食い漁って理宇状態が続く、早朝より鴉の番をした。サラリーマンがそのまま捨て、あとのことはどうでも良いとしての事で、ゴミ処理の大変さを旗で示し、理解をしてもらい、今では協力してもらえた。鴉のおかげで近隣の人と近づけた！！

**2. 子ども主体の地域の拠点づくり**

- 1 子どもの提案箱（声）を具体化
- 2 自らがやりたいことを企画できる子ども委員会

**3. 集団行動を伸ばす地域環境**

- 1 学校と地域社会との連携
- 2 現場を知ること
- 3 学校も地域のことを話す機会を持つ

**4. 大人と子どもの関わりづくり**

- 1 家族で話題を出し合う場をもつ
- 2 気軽にどの子どもにも注意ができる地域になりたい

**5. 全ての子ども（障害児も…）を育む環境**

- 1 地域行事でつなぐ
- 2 愛情障害にしない
- 3 障害者という考え方を変える。障害は 1 つの個性である。

**\*\*\*プログラム\*\*\***

13:30	受付
13:30	開会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 開会挨拶</li> <li>➢ オリエンテーション</li> <li>➢ アイスブレイク（自己紹介）</li> </ul>
14:00	基調報告 「子どもを取り巻く社会環境の現状とニーズ把握」
14:30	実践事例 「実践で子どもたちを育む活動に学ぶ」
15:10	ワークショップ 「子どもを取り巻く環境改善・解決にトライ」
16:10	閉会

## 6. 子ども会組織の維持

- 1 親の教育をやり直す
- 2 廃品回収（新聞紙等）日を決めて回収し、子ども会の運営に協力する。
- 3 中高生の地域参加



## 7. 母子・父子世帯の現状

- 1 じじ・ばばとの関係
- 2 「母子家庭だから出来ない」と言うのではなく、自分の出来ることには参加する意欲を。
- 3 母子・父子の親が生活しやすい環境にする（悪いという考え方をなくしていく）

## 8. 地域行事

- 1 行事の内容を見直す
- 2 組織の充実を図る
- 3 地区の企業の参加協力
- 4 地域の行事に親子で参加してもらいたい



## 9. 自然的環境教育の展開

- 1 行事を作り教育する（ホテル鑑賞会等）
- 2 若者を自治会の役員にする
- 3 地域の農園、花壇づくり 1世帯1植



- 9月より、「子どもと社会環境その意識と実態調査」を開始します。500枚回収を目標としています。調査票回答、データ入力の協力をお願いします。

### 本会支援協力の「焼津市港地域ささえあい講座」今年度の特徴は……

いよいよ、9月8日より12月8日まで、全4回にわたり開催する「焼津市港地域ささえあい講座」。市民主体の24名の実行委員会の運営で4月から議論を積み重ねてきた。その特色を改めて整理をすると、

- (1) 港地域づくり推進会（第14・第23自治会5,000世帯地域組織）の福祉事業による地域活性化
- (2) 財源（コミュニティ活動集団助成2年目、焼津市公益活動補助金事業）
- (3) 住民主体の啓発学習の取り組みにより、多くの地域住民に「福祉を学びあう」機会を積極的に呼び掛ける（地域課題発見と改善・解決努力による実践活動「共助」を探る）
- (4) 管内13の介護事業所との連携
- (5) 実践的体験型福祉施設体験研修プログラムの開拓
- (6) IT部会設置とHP立ち上げ及びQRコード作成による広報啓発の具体化
- (7) 若者の積極的な参加開拓努力（e.g. 中学校、企業…etc.）
- (8) 実行委員会の中に生活支援研究会（ワークショップ）を設置【新規】
- (9) 動員型研修会から、住民参加型研修会実現への努力
- (10) 身近な地域社会における講座に取り組み、焼津市全体への啓発の努力
- (11) 「講座テキスト」「講座通信」「報告書」「DVD制作」の編集発行
- (12) 本事業は、17の機関・団体の後援承認による実現。

## 事務局日誌拝見 (06/12~09/01)

06/12	第1回公開型研修会欠席会員に関連資料及び「Our Life 118号」発送
06/15	第2回公開型研修会に関する連絡調整(会場変更)
06/17	「日本福祉文化学会理事会」(大阪市)にて、本会の活動状況報告 会員状況把握(退会対応)
06/25	ふじのくに未来財団へ助成申請書類提出
06/28	日本福祉文化学会中部東海ブロック会員18名に「Our Life 118号」送付
06/29	本会会員会費未納状況確認
07/07	会計に関する協議:あしたの日本を創る協会助成金5万円活用状況
07/20	「ふじのくに未来財団助成申請」書類審査不合格通知有 調査研究活動の継続課題
07/26	当面の活動検討 第2回公開型研修会準備作業 調査研究活動検討
08/11	第2回公開型研修会参加呼び掛け 関係方面に35通郵送案内実施
08/12	マスコミ対応 日本福祉文化学会事務局との連絡調整
08/13	マスコミより、本会の子どもの貧困問題に関する問い合わせ有
08/15	第2回公開型研修会開催地元対応:(1)参加者は予測難しい (2)会場手配 (3)実践発表依頼
08/22	本会への入会希望1名有
08/22-24	第193回委員会及び第2回公開型研修会レジメ、資材等準備作業実施
08/25	第193回委員会及び第2回公開型研修会開催(参加者13名)
08/27	「Our Life 119号」編集作業
08/29	第23回調査研究事業の「調査票」の内容検討作業
09/01	「Our Life 119号」発行 会員及び関係方面への発送作業

### \*\*\*「第17回静岡県福祉文化研究セミナー」のご案内\*\*\*

「福祉文化研究セミナー」の誕生は、平成14年11月に裾野市民文化センターを会場に開催した「第13回日本福祉文化学会大会 in しずおか」の尊い「福祉文化論議」を継続しようと、現在につながっている。

- 日時:10月20日(土) 13:30~16:30
- 会場:静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
- テーマ:『静岡発 福祉文化の創造と子ども支援を考える』
  - ① 基調報告 その1「福祉文化研究セミナー17年を探る」  
-今こそ、地方発 福祉文化の創造の時代-
  - ② 基調報告 その2「子どもの居場所 その意識と実態を探る」  
-第23回調査研究活動の意義と方向性-
  - ③ ワークショップ「ほっとする子どもを育む地域を創る」

### ●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか??

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し、平成28年度に21年の節目を迎えました。平成29年度は新たな節目に向かい、「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

- ◇ 会費:社会人3,000円 大学生以下1,000円
- ◇ 問い合わせ:420-0841 静岡市葵区上足洗3-7-15-5 静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

### 編集後記

「危険な暑さ」が続いているが、振り返ってみると、あっという間に5か月が過ぎる。

今年度は、「あしたの日本を創る協会」から、調査研究活動に、尊い助成支援(5万円)をいただき、後は、なんとか自助努力で「公開型研修会」(2回)と、「焼津市港地域づくり推進会」支援活動、「Our Life」機関誌2回発行に努めている。昨年度実施した「居場所」その意識と実態調査は、現在も、各方面から多くの問い合わせをいただいている。

今年度は、「子どもの社会環境その意識と実態調査」に取り組む。活動への更なる参画を。